

をなくさないで終えられた、一つの大きな力になった
教育研究所に今も心から感謝しております。

(みついふじお・新潟市)

私とにいがた県民教育研究所

三 輪 定 宣

にいがた県民教育研究所は、1984年12月2日の
創設以来40周年を迎えるとのこと。まことにおめでと
うございます。私も当初から八木三男先生を介して貴
研究所とはご縁があり、いろいろ学ばせていただきま
した。特に私が千葉大学に勤め、非常勤講師として東
京大学教育学部で教育財政学の授業を担当していた頃
(1983～1993年)、若い学生と並んで受講され
ていた白髪のお姿が鮮烈に蘇ります。千葉大学や拙宅
にもお立ち寄りいただきました。

また、2013年3月の千葉県知事選挙に立候補し

た際には、お嬢さんの八木絹さん主宰の戸倉書院に
『三輪定宣業績一覧―経歴・著作・記事・講演等―』
を刊行していただき、運動の大きな力となりました。
『にいがたの教育情報』に掲載いただいた拙稿は約
20点です。以下の通りです。『三輪定宣著作集』(全7
巻第1巻2022年7月、第6巻2024年9月、第7
巻未刊)に収録しました。ここにあらためてお礼を申
し上げるとともに、貴研究所のますますのご発展を衷
心より念願いたします。

『にいがたの教育情報』掲載の三輪論文。

- ① 「日本の教育運動における「にいがた県民教育研究
所」の役割と意義」(1990年1月、24号)
- ② 「教員派閥研究における記念碑的労作」(1992
年5月、31号)
- ③ 「教育財政セミナー」講義録「日本の教育危機をの
りこえる教育財政とは」(1996年11月、48号)
- ④ 「任期制で大学はよくなるか」(1997年6月、50
号)
- ⑤ 「教師はなぜ、キレるか―ヒューマンスケールの学
級・学校規模を問う」(1998年7月、54号)

- ⑥ 「不況にもろい高教育費社会」(1998年12月、56号)
- ⑦ 「教育改革国民会議報告をどう読むか」(2000年12月、64号)
- ⑧ 「小泉内閣の「構造改革」と選別教育の推進―財政出動の視点から―」(2001年12月、68号)
- ⑨ 「教育基本法第10条と戦争と平和」(2003年9月、75号)
- ⑩ 「(にいがた県民教育研究所20周年への)メッセージ」(2004年12月、80号)
- ⑪ 「義務教育国庫負担制度と「三位一体改革」」(2004年12月、80号)
- ⑫ 「高すぎる経済負担」(2005年3月、81号)
- ⑬ 「教育基本法「改正」と教育の機会均等」(2006年10月、88号)
- ⑭ 「八木三男『窓前の木の間から』に寄せて」(2007年6月、90号)
- ⑮ 「財政難と教育効果をかかげる学校統廃合をどう考えるか」(2008年6月、94号)
- ⑯ 「書評『八木三男教育論集 新潟から日本の教育をみる』」(2009年6月、98号)

⑰ 「(にいがた県民教育研究所に期待するもの)」(2009年12月、100号)

⑱ 「戦後70年の教育運動―教育政策との対抗の軌跡―」(2015年7月、118号)

(みわさだのり・千葉大学名誉教授)

多くの人に会えたこと

吉田 武雄

私は、三十四年編集部にいました。その間じつに多くの人に接することができたのは、得難い体験でした。例えば県内の殆どの私立大学の学長にインタビューしました。

また「学園」問題を研究された黒川克己さんになぜこの問題に着手されたのか、お聞きしました。答えは、「学生たちが、就職に当たり理不尽な扱いを受けているからだ」です。黒川さんは地学専門で研究室は岩石